

# 中小企業景況調査報告書

令和5年4～6月期実績

令和5年7～9月期見通し






## 始良市商工会

(令和5年7月発行)

この調査は、始良市の産業状況等地域の経済動向について、四半期毎に変化の実態等諸状況を収集して実施しているものです。

























この報告書の中で、用いられているD・I指数とは、ディフュージョン・インデックスの略で、【増加・上昇・好転】の割合から【減少・低下・悪化】の割合を差し引いた値で企業経営者の景気動向を表す指数として利用されています。

### 〈お天気マークの説明〉

 特特别好調 +30.0 以上	 好調 +29.9～ +10.0	 まあまあ +9.9～ ▲9.9	 不振 ▲10.0～ ▲29.9	 極めて不振 ▲30.0 以上
--	---	---	--	--

- 調査対象期間 令和5年4～6月期を対象とし、調査時点は令和5年6月1日とした。  
令和5年7～9月期は予測値となる。
- 調査方法 商工会の経営指導員による訪問及び面接調査による。
- 調査対象商工会 始良市商工会
- 回答企業 対象企業 30企業（※始良市30企業を基に指数を表示しており、あくまでも参考指数と理解下さい。）  
製造業：7企業 建設業：7企業 小売業：8企業 サービス業：8企業

### 県内産業別業況 DI

		製造業		建設業		小売業		サービス業	
対前年 同月比	4年 4月～6月期		▲29.6		▲6.7		▲25.4		▲26.7
	4年 7月～9月期		▲34.1		▲6.7		▲33.9		▲23.4
	4年 10月～12月期		▲11.4		▲3.3		▲23.7		▲14.3
	5年 1月～3月期		▲7.0		▲16.7		▲25.9		▲24.7
	5年 4月～6月期		▲2.3		6.7		▲5.2		3.9
	来期見通し(7～9月期)		6.9		▲3.3		▲8.8		0.0

### 総合（業況）

前年同期（令和4年4月～6月期）と比較した今期（令和5年4月～6月期）の業況は、製造業▲2.3（前年同期比 27.3ポイント改善）、建設業 6.7（前年同期比 13.4ポイント改善）、小売業▲5.2（前年同期比 20.2ポイント改善）、サービス業3.9（前年同期比 30.6ポイント改善）となった。

今期については、新型コロナが5類感染症に移行となりイベントの開催やインバウンド消費の回復などで日常に戻りつつあり、全ての業種において改善の兆しが見え始めた。また前期（令和5年1月～3月期）も比較すると、製造業4.7ポイント、建設業23.4ポイント・小売業20.7ポイント・サービス業28.6ポイント全業種改善となった。

なお、来期（令和5年7月～9月期）の見通し（DI）は、今期と比較すると、製造業9.2ポイント・サービス業3.9ポイント改善するものの、建設業は10ポイント・小売業3.6ポイント悪化となる見通しとなる。4月になり電気料金や送料をはじめ、調味料等の原材料費も軒並み価格上昇となり、売上は回復となっても、ゼロゼロ融資の返済も始まり、採算や資金繰りなど中小企業は依然として厳しい状況にある。

## 業種別景気動向

### 【製造業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：食料品(2)、窯業(1)、衣類(1)、家具(1)、印刷(1)、ガラス製品(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
4年 4月～6月期		▲28.6		▲14.3		0.0		▲28.6
4年 7月～9月期		▲28.6		▲42.9		▲28.6		▲42.9
4年 10月～12月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
5年 1月～3月期		14.3		▲14.3		▲14.3		▲14.3
5年 4月～6月期		42.9		28.6		0.0		14.3
来期見通し(7～9月期)		14.3		28.6		0.0		28.6

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・従業員の確保難が依然として続いている。製品の価格改定を行っているが、原材料価格の上昇が続いており、利益の回収が後手後手となっている。しかしながら、引き合いは続いており、従業員を確保し安定した製造で利益を確保していきたい。
- ・コロナ下で止まっていた事業が動き始めた。しかし、その分の材料不足が長期化している。受注から納品までに納期が長くなっている状況。

#### <経営上の問題点>

- ・原材料の不足、原材料価格の上昇が上位を占め、従業員の確保難、需要の停滞への対応に苦慮している企業も多い。

### 【建設業】 有効回答数 7企業

調査対象企業内訳：総合工事業(2)、設備工事業(1)、職別工事業(4)

	完成工事額		採算		資金繰り		業況	
4年 4月～6月期		▲42.9		▲57.1		0.0		▲14.3
4年 7月～9月期		▲28.6		▲42.9		▲28.6		▲14.3
4年 10月～12月期		▲57.1		▲71.4		▲28.6		▲42.9
5年 1月～3月期		▲28.6		▲57.1		▲14.3		▲57.1
5年 4月～6月期		▲28.6		▲14.3		▲14.3		▲14.3
来期見通し(7～9月期)		0.0		0.0		0.0		0.0

#### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・原材料価格上昇の影響で、先行きが見通せない状況となってきており、官民需要の停滞が顕著である。
- ・原材料及び燃料の高騰により、赤字になることも想定され、先行き不透明な状況が続くと考えられる。

#### <経営上の問題点>

- ・原材料価格の上昇、従業員確保難に加え、熟練技術者の確保難等も顕著となっている。取引条件の悪化、人件費の増加等、利益が出にくい状態になってきている懸念があるとしている企業もある。

## 【小売業】 有効回答数 7 企業

調査対象企業内訳：飲食料品(3)，衣服(1)，各種商品(1)，その他(2)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
4年 4月～6月期	傘	▲75.0	傘	▲62.5	傘	▲37.5	傘	▲62.5
4年 7月～9月期	傘	▲75.0	傘	▲62.5	傘	▲50.0	傘	▲75.0
4年 10月～12月期	傘	▲62.5	傘	▲75.0	傘	▲37.5	傘	▲50.0
5年 1月～3月期	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲50.0
5年 4月～6月期	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲25.0	傘	▲25.0
来期見通し(7～9月期)	傘	▲25.0	傘	▲50.0	傘	▲12.5	傘	▲25.0

### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・新型コロナが2類から5類へ移行し、社会経済活動が活発になってきたと感じる。それに伴う売り上げ増を期待している。

### <経営上の問題点>

- ・販売単価の低下・上昇難、仕入単価の上昇が上位を占め、需要の停滞、購買力の他地域への流出、消費者ニーズの変化への対応を問題としている企業も多い。

## 【サービス業】 有効回答数 8 企業

調査対象企業内訳：洗濯業(2)・理美容業(3)，飲食店(2)，その他(1)

	売上額		採算		資金繰り		業況	
	傘	▲	傘	▲	傘	▲	傘	▲
4年 4月～6月期	傘	▲37.5	傘	▲37.5	傘	▲12.5	傘	▲25.0
4年 7月～9月期	傘	▲12.5	傘	▲12.5	傘	▲12.5	傘	▲12.5
4年 10月～12月期	傘	▲12.5	傘	▲25.0	傘	▲12.5	☀️	12.5
5年 1月～3月期	傘	12.5	傘	▲25.0	傘	▲25.0	傘	▲12.5
5年 4月～6月期	☀️	25.0	☁️	0.0	☀️	12.5	☀️	25.0
来期見通し(7～9月期)	☁️	0.0	傘	▲12.5	☁️	0.0	☀️	12.5

### <調査企業が感じている景気判断コメント>

- ・コロナが5類に下がり、人の活気が感じられるようになってきた。また、損益分岐点を超えるようになってきており、利益率も順調に推移している。
- ・少しずつ明るい兆しが見えてきているようであるが、本格的に動き出すのはまだまだ先のようなのである。イノベーションを進めていきたい。

### <経営上の問題点>

- ・従業員の確保難、利用者ニーズの変化への対応、人件費の増加、店舗施設の狭隘・老朽化が上位を占め、人件費以外の経費の増加、材料等仕入単価の上昇を問題としている企業もある。

鹿児島県金融経済概況

【概要】

鹿児島県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、緩やかに回復している。観光は、緩やかに回復している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、増加している。生産は、弱めの動きとなっている。

企業部門の動向を短観（6月<鹿児島・宮崎両県集計分>）で見ると、設備投資は、増加している。雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を上回って推移している。家電販売額は、前年を下回って推移している。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を上回って推移している。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を下回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲を中心に前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数（季節調整済）は、電子部品・デバイス、食料品を中心に前月を下回った。

6. 雇用・所得環境

有効求人倍率（季節調整済）は、低下した。

現金給与総額は、前年を上回った。

常用労働者数は、前年を上回って推移している。

7. 物価

消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、前月を下回った。

企業倒産件数は、前年を上回った。